



主張

次期学習指導要領へのつぶやき

青海 正

理念や趣旨の浸透が道半ばである現行の学習指導要領の熟成を踏まえ、これからの時代にふさわしいGIGAスクール構想時代の学習指導要領を待ち望みます。

○情報活用能力の抜本的向上と技術・家庭科の刷新

柔軟な発想で、複雑かつ多様な課題に対応する力を養うには、学びの在り方にも変革が必要であり、デジタルとリアルの最適な組み合わせによる、新しい授業スタイルの展開に注目しています。これまでの授業内容にデジタルを活用した情報収集・分析といった要素を盛り込むことで、より深い学びや新たな気づきが生まれるのではないかと考えます。

また、中学校技術・家庭科の技術分野を、情報活用能力を基盤に、ものづくりと情報通信技術を融合した学習内容を取り扱うようにします。技術・家庭科は、技術分野と家庭科分野から構成される科目ですが、情報技術を活用したものづくりを充実させ、生徒の情報活用能力を育成することを目指して、従来の木工やものづくりを情報技術と関連付けて学ぶ内容に充実させ、生徒が将来社会で活躍するために必要なスキルを身に付けることを目的とします。そして、家庭科分野がこれまで担ってきた家族・家庭生活、衣食住、消費生活、環境、いわゆる消費者教育などの重要性も十分に踏まえて、在り方を考える必要があ



ると思います。技術科や家庭科は、正規教員が不在で講師による対応をしている学校、臨時免許状保有者や免許外教科担任により対応している学校が多い教科です。指導体制の確保、及び担当教師の指導力向上に関する施策の加速化は必須です。

○生徒のより主体的な社会参画に関わる教育の改善

身近な社会である学級・学校で多様な個性や特性、背景をもつ他者との対話や協働により、生徒が主体となつてルールの形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することを重視しています。このことにより、確かな民主主義のリーダーを育て、共生社会を実現する基盤を提供する領域として、特別活動（生徒会活動、学校行事、学級活動）の位置付けを明確化します。特別活動は、その特質から、我々が指導する上で重要な三つの視点として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」が挙げられます。特別活動が、これまで学校教育に果たしてきた役割は大変大きく、その活動の範囲は学年、学校段階が上がるにつれて広がりをもち、そこで育まれた資質・能力は、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中で生かされていくこととなります。また、中学校を卒業するときに、生徒が三年間で印象に残ると回答した教育活動は、部活動と並んで、特別活動は揺るぎない双璧の活動です。一方、特別活動には教科書等の教材がないことなどから、先輩教員からの指導技術の継承が円滑に行われなかったり、特別活動の教育的意義が十分に理解されなかったりするなど、前例踏襲、特別活動の学習が必ずしも効果的に行われていないという課題も見られます。新しい学習指導要領において、特別活動の取組例と評価・改善等の仕組みを検討するなど、特別活動を中核として、生徒のより主体的な社会参画に関わる教育の見直しを図っていくことは意義深いと思います。（全日本中学校長会会長・大田区立志茂田中学校長）